ハワイ日系アメリカ人の生き方

――ライフヒストリー聞き取り調査から――

The Life of the Japanese American Today: From the Interviews in Honolulu, Hawaii

村　上　和賀子

要　　旨

本論文では，まず海外移住が始まった1868年の開国から，日本人のアメリカ，特にハワイへの出稼ぎ，そして移住から定住へと変化していった日系人の海外移住の歴史的流れを概観した。次に2019年２月６日にハワイ州，ホノルルにおいて，英語で実施した日系アメリカ人Ａ氏およびＢ氏のインタビュー調査結果を検証した。インタビュー調査は，被験者２名のライフヒストリー，日系人として大切にしていること，ハワイ日系社会の文化や日本文化について，またハワイ日系社会における最近の変化と今後のあり方について語ってもらい，彼らがどのように生きてきたか，これからの時代に向けて，日系社会のためにどのように貢献していくのか検証した。

キーワード

ハワイ，日系アメリカ人，ライフヒストリー，元年者，強制収容所

１．はじめに

ハワイについて多くの日本人が憧れを抱き，尋常でない恋慕を抱いた一つの証拠であるとして，堀はその著書『ハワイに渡った海賊たち』の序章において，レジャー施設「常磐ハワイアンセンター」（現在の「スパリゾートハワイアンズ」）を挙げている[1)]。同施設は，常磐炭鉱時代地下湧水の温泉を利用して，「夢の島ハワイ」をイメージした日本初のリゾート施設，日本初

のテーマパークとして1966年１月15日に開業した。初年度の来場者数は平日で２〜3,000人，日曜は１万人を数える人出で賑わい，年間約120万人が来場した。1964年，日本観光協会の調査によると，一番行ってみたい国（観光地）のナンバー１はハワイであった[2)]。

夢の島，常夏の島ハワイを出稼ぎ先，そして生活の舞台に選んだのは山口県東部に位置する周防大島をはじめとする瀬戸内海沿岸地域の人々であった。公式には1885年（明治18年）に官約移民制度が始まるが，最初の日本人集団渡航は1868年（明治元年）に遡る。元年者と呼ばれる彼らがハワイに渡ったのは，ハワイ王国が砂糖黍プランテーションで働く労働者を必要としていたためであった。「東京市号」でハワイに渡った第一回官約移民944人のうち山口県民が420人を占めた理由は，当時の外務卿が山口県出身の井上馨であったからと言われているが，その官約移民制度は1893年（明治26年）ハワイ王国が終焉を迎えたことで，翌1894年（明治27年）幕を閉じた。それまで２万9,000人余りがハワイに渡り，とりわけ山口県民の占める割合は広島県民38.2％に次いで，35.8％と高かった[3)]。

今日，ハワイ州ではアジア系が人口の40％に近く多数派となっている。これはすべてのアメリカの州で唯一であり，混血の比率が高いこと，他の州で増加を続けているラテン系が少ないこと，白人が少ないことも大きな特徴である。アジア系の住民の中でも特に日系人が多く（13.6％），出身国別ではフィリピン系（14.6％）に次いで第２位である。現在日系人は一世から五世までいると言われているが，三世以降の日系人のほとんどは日本語を話さない。ハワイは日本人にとって人気の観光地であり，旅行会社の駐在員や留学生，別荘などを利用する長期滞在者も多く，その数だけで２万人とも言われている[4)]。

本稿では，現在のハワイで活躍する日系アメリカ人Ａ氏とＢ氏へのインタビューにおいて，それぞれのライフヒストリー，日系人として大切にし

ていること，ハワイ日系社会の文化や日本の文化について，またハワイ日系社会における最近の変化と今後のあり方について語ってもらい，日系人として，同時にアメリカ人として，二つのアイデンティティーの狭間で葛藤を乗り越え，時代の波にさらされ翻弄される家族とともにどのように生きてきたか，そしてこれからの時代に向けて，日系社会のためにどのように貢献していくのか，その一例として提示する。

2．海外移民の始まり

日本人の海外渡航は1868年の開国，明治維新とともに始まった。鎖国状態で孤立していた日本が資本，労働力，交通の面で世界の一部となる過程で，日本人は急激な社会の変化の渦に巻き込まれる。それまで封建制の下で土地に縛られていた農村人口が，国内のみならず国際的規模で移動するようになった。また近代医学の導入により急速な人口増加がもたらされ，国内資源の少ない日本から余剰人口が海外へ流出することとなる[5)]。

このような余剰農業人口の存在は，開国とともに日本に押し寄せた欧米商人の関心を集め，彼らはハワイや南アメリカ向けの「苦力（クーリー）」と呼ばれる半奴隷的労働者の供給源として，当時の清国同様の役割を日本に期待していた。そして明治元年には，アメリカ人貿易商ヴァン・リードが150人ほどの日本人労働者をハワイの砂糖耕地へ，さらに40人をグアムへと送り出し，いわゆる「元年者」が日本人「移民」の先駆けとなった[6)]。

元年者以降，1885年まで日本政府は，日本人下等労働者の海外渡航が近代化国家としての日本のイメージを低下させ，特に欧米諸国との外交関係を損なうことを憂慮したため，原則的に労働移民の渡航を禁止した。しかし1880年代前半，農村部を襲ったデフレ不況の中で，移民政策の方向転換を余儀なくされ，送金による外貨獲得と農村疲弊の解決を目的とした労働移民の渡航を許可した[7)]。

1885年，日本とハワイ王国間で条約が締結され，砂糖黍プランテーションへの「官約移民」が３年間の契約で開始された。実際の労働者選抜は，日本政府監視下の三井物産によって行われ，広島，山口，福岡などの南部県を中心に実施された。官約移民制度は1894年にハワイ王国が崩壊したことで消滅したが，９年間で２万9,000人もの日本人契約労働者がハワイへ渡航した[8)]。

19世紀末，サンフランシスコを中心としたアメリカ本土西海岸地域には，学生労働者や自由民権活動家が渡って行った。彼らの中には後に日本に戻り政治家や事業家となって活躍した者もあったが，一部はアメリカに残り英語やアメリカの社会制度を学び，労働者請負人として移民社会の指導者としての役割を担った[9)]。

ハワイでの契約労働禁止とともに，西海岸の高賃金に惹かれてハワイ在留日本人３万7,000人がカリフォルニアに押し寄せた。これらの出稼ぎ労働者は英語の知識もなく，近代的契約の考え方にも疎かったので，仕事探しや雇用主との交渉においても学生あがりの労働請負人の助けを必要とした。出稼ぎ労働者の急増は請負人に経済的潤いを与え，やがて請負人の中には商売や小作農業を始める者もあった[10)]。

こうしてハワイと西海岸の日本人移民社会は，1910年頃までに日本人会，邦字新聞社，教会寺院，日本語学校など様々な団体の運営を始めるとともに，一般的に独身男性労働者を中心として出稼ぎ志向の日本人コミュニティーは，日米紳士協定の下，在留民の家族として渡米してきた女性たちを加えて，永住志向のコミュニティーへと変貌していった。女性たちの中には，写真の交換だけで入籍した「写真花嫁」と呼ばれる者も多く，1909年から1920年までに渡米した９万3,000人の日本人移民のうち約39％が女性で，1912年から1929年までの間に，7,000人もの女性がシアトル，サンフランシスコから入国したと言われている[11)]。

1920年代初頭，差別法が「帰化不能外国人」という定義を拠り所に，日本人に対する差別を正当化していたことから，小沢孝雄は日本人会に後押しされて，帰化権利獲得を求めて合衆国最高裁判所の法的判断を求める訴訟を起こしたが，1922年に人種的違いを理由に，日本人移民はアメリカ市民権取得の恩恵を受けられないと判断され敗訴した。この判決により，一世の「帰化不能外国人」としての身分が確定し，彼らに対する法的差別待遇が合法化されることになった[12)]。

このような差別法に苦しむ一世たちは，アメリカ生まれの二世へとその希望を繋ごうとした。1920年代後半以降，一世の知識層は二世の日本語学習の重要性を意識するようになり，世代間の意思疎通のためばかりでなく，二世に日米の懸け橋となって活躍させるためにも，日本語は必要不可欠であるという議論が盛んになった。ハワイでもアメリカ本土でも二世の教育のため日本語学校が多数創設され[13)]，また情操教育の一環として野球やバスケットボールなどの二世リーグが組織され，剣道や柔道などの武道も盛んに行われた。一方，日本での留学を通じて二世の日本的情操教育を考える一世も少なくなかったが，日本留学を終えて帰国した二世は英語に苦労することも多く，「帰米二世」と呼ばれて差別されることもあった[14)]。

二世の若者たちはより広い社会参加を目指して努力し，都市部で仕事に就く者も増え，農業市場での卸売りや青果の小売りなどに従事した。また自らを太平洋の架け橋と見なし，アメリカの日本理解促進のために奔走する者も現れた[15)]。

1941年12月の日本による真珠湾攻撃は，一世と二世に厳しい試練をもたらした。ハワイでは直ちに「危険敵性外国人」と見なされた移民指導者たちがFBIにより身柄を拘束され，アメリカ本土でも，有力な一世は軒並み逮捕された。反日感情は一般日系人住民にも向けられ，1942年２月19日には，ルーズベルト大統領の名のもとに大統領行政命令9066号が発令され，

「軍事ゾーン」から日本人住民の集団「疎開」が始められた。同年３月中旬から，11万人以上の一世および二世が西海岸地域から排除された。彼らは臨時「集合所」で数カ月を過ごした後，内陸部に急造された強制収容所に送致された[16]。

第二次世界大戦終結とともに，日系人はすべてを失った状態から生活再建のために一般社会に復帰するが，激しい反日感情が残存する状況の下で，人種の壁を乗り越えてアメリカ社会に同化しようとする努力は並大抵のものではなかった。強制収容の違憲性を明らかにし，合衆国政府から公式謝罪と補償を要求する運動が，1970年代初頭に強制収容を直接には体験していない三世の社会運動家を中心に組織され，次第に二世を含む全コミュニティーを巻き込んだ運動へと発展した。1988年には日系人補償法を制定させるに至り，1990年から，収容者一人につき２万ドルの補償金とブッシュ大統領署名の公式謝罪文を勝ち取ったのである[17]。

18年間にわたる補償要求運動は，個人個人の政治に対する意識の相違や世代間の認識の相違を乗り越えて，二世，三世が日系人としての歴史体験を共有し，共通のエスニシティーを持つ者として団結することを可能にした。アメリカ化や混血化が進んでいる日系社会は，日本文化とは異質の日系文化を創造してアメリカ社会を担うものとして発展している[18]。

３．ホノルルにおけるインタビュー調査

森本豊富編著による『移動する境界人―「移民」という生き方―』で，第１章「『帰米二世』という生き方」において，森本はアメリカ西海岸とハワイで行った帰米二世を中心とする日系アメリカ人への質問紙調査とインタビュー調査をもとに検討し，その中から４人を抽出して詳細に分析した[19]。森本の調査は1999年８月，2000年７月～８月，2001年８月，2002年５月～６月，同年９月，2006年９月に，調査者が現地に赴き質問紙に回答しても

らい，その後個別にインタビューを行う調査形式をとった。対象となった日系人は合計61人で，そのうち有効回答は45件であったとして，対象となった地域と被験者の人数，性別，調査時の年齢，平均年齢などが示されている。質問内容は ⑴ 基本項目として氏名，性別，生年月日，出生地，国籍，父方・母方の日本における出身地，職業，現住所 ⑵ ライフヒストリーとして時系列の生い立ち，転換期，二つの文化に対する思いなどとしている[20]。森本は調査結果の扱い方として，「調査対象となった45人の調査結果をもって，帰米二世の属性について一般化するつもりはない。45人にはそれぞれに異なる生活史があり，一般化すること自体にあまり意味はない。インタビューを重ねるのは，一般化することが目的ではなく，数量的な整理から漏れる個別の事情をできるだけ拾い出すことにある。」と述べている[21]。

本稿のインタビュー調査は2019年２月６日にハワイ州ホノルルにおいて実施した。ハワイ州観光局[22] の Mitsue Varley 氏および Kimiko Quan 氏の紹介により，ともにホノルル在住の日系アメリカ人三世Ａ氏〔Japan-America Society of Hawaii 勤務〕[23] およびＢ氏〔Japanese Cultural Center of Hawaii 勤務〕[24] に英語で聞き取り調査を実施した。質問事項は以下のとおりである。

- 現在に至るまでのライフヒストリーを聞かせてください。
- 日系人として大切であると思われることを聞かせてください。
- ハワイ日系社会（文化）についてお考えを聞かせてください。
- 日本文化（特に日本語）についてお考えを聞かせてください。
- ハワイ日系社会の最近の変化と今後のあり方についてお考えを聞かせてください。

本稿のインタビュー調査においても，森本[25] が述べているように，被験

者２名それぞれが語るライフヒストリーから，「外的な影響力によって周縁におかれて受動的に生きる『境界人』の姿ではなく，個人の意思を強く持つことによって，時代の波を乗り切る主体的で戦略的な生き様であり，社会の媒介変数によって左右される個人の姿というよりも，直接的な影響を受けながらも，適宜戦略的にその場を乗り切る積極的な生き方」を汲み取ることが可能であるとの仮説に立つものである[26)]。

４．インタビュー調査の分析

（1）　A氏インタビューから

①　祖父母，父母について

So my paternal grandparents are from Fukuoka and my maternal grandparents are from Miyagi-ken. My grandparents, of course, are Issei and then my parents are second generation. My father spoke fluent Japanese. He was in military intelligence right after the war. He was in high school when World War II occurred. My mother speaks some Japanese but very dialect type as my grandparents did not come from Tokyo or Osaka.

〔要約〕父方の祖父母は福岡出身，母方の祖父母は宮城県出身である。祖父母は一世で，両親は二世である。父は流暢に日本語を話し，戦争直後，軍の情報部に勤務した。父は第二次世界大戦が始まった時，高校生であった。母は多少日本語を話したが，方言のある日本語であった。

②　日本語学習について

I grew up in a household with my father’s mother, my obaachan, Baba as we called her. She only spoke Japanese, but I could not speak Japanese. I understood what she was saying to me, mostly scolding of course but I responded in English. I never really spoke Japanese fluently, a few words

here and there. From the time I was 4 years old, I was going to Japanese language school, and back in that time, about the mid to late 60s, Japanese language schools here in Honolulu were run by first-generation Japanese people usually at some temple, but the Japanese school I went to was at my elementary school, Palolo Gakuin, run by a husband and wife. But I will tell you that the way you learn Japanese when you go to that kind of Japanese language school is that you memorize. You memorize hiragana, memorize katakana, memorize kanji, so I could read but I had no idea what I was saying. I don't know the meaning. Because I memorized the characters, I can read it. Of course, I knew generally what I was talking about, but I could never really converse with anyone in Japanese fluently in my whole life. I finished Japanese school in middle school and took Japanese in high school. Three years, the same thing, memorization, but no conversation. So I don't really know how to speak it and because English was spoken in the home and our friends all spoke English, there was no real opportunity to practice conversational Japanese. I would even venture to say, even if you went to language lab, I think that's not enough. You really need to immerse yourself in a group or something that speaks Japanese. There was always something in me that said, "I really want to speak Japanese, but I just can't get it." Then I went to the University of Hawaii. I majored in Business. I wanted to be a buyer in a store, fashion merchandising. I took Japanese in my freshman year and after that I gave up. Japanese at that time—I don't know if it's like that today—was daily, five days a week class and then there was language lab, so it was a lot of work. I just said, "This is not working for me," so I stopped. That is my experience about learning Japanese as a third generation. I would venture to say that many of my friends' experiences are

very similar, the people that grew up with and went to college with—very similar experience.

〔要約〕私は父の母である祖母のいる家で育った。祖母は日本語でしか話さず，私は日本語が話せなかったが，祖母の言うことは理解し英語で答えた。４歳のころから日本語学校に通っていたが，60年代半ばから後半にかけて一世が経営する日本語学校が寺などで開校されていた。私が勉強した日本語学校 Palolo Gakuin は，通っていた小学校にあった。学習の仕方はすべて暗記で，ひらがな，カタカナ，漢字を暗記する学習法であったので，読むことはできるが日本語で会話することができなかった。ハワイ大学に進学し専攻はビジネスであった。１年生で日本語コースを履修したが，その後諦めた。当時は週５日授業がありラボでの練習もしなければならなかった。多くの課題についていけなくなる学生は少なくないが，三世の私以外にもともに成長し，ともに大学に通った日系の友人たちの多くが同じような経験をしたのではないかと思う。

③　ハワイの文化的特殊性について

Hawaii is unique and special to me. I know that if you go to San Francisco or L.A., I don't know about New York so much, but there are Japantowns and Chinatowns and people live more diverse. But here we all kind of live together. We learn how to live with each other's cultural differences. It's really and truly a melting pot. In terms of being Japanese-American here in Hawaii, I hear all the time from native Japanese friends and acquaintances how shocked, how surprised they are at how much of our Japanese traditions and culture is so strong here in Hawaii, the kind of holidays we celebrate, the kind of food we eat, like Hina Matsuri. We celebrate those things. We have Obon season. There is Bon dance. There are several Bon dances, every

weekend from end of June to August here. My Japanese friends from Japan are shocked. They say, we don't even do these kind of things in Japan. But these traditions, we hold it close to our heart, because that is our connection —maybe more so because we don't speak Japanese—that is our connection to our heritage. So I think even more so, we hold it very close to us and we try to uphold those traditions. I do believe—my son is fourth generation and there is probably fifth and sixth generation Japanese here already—it does get wanted down, so our generation, all the 20-plus Japanese organizations here in Hawaii are really hard to maintain the traditions and culture of Japan and passing it on to our children and helping them to understand the importance of holding on to those things and not losing them. Those customs and heritage become generalized with community. So that is more like a natural event for not only Japanese but also for other people.

〔要約〕ハワイは私にとってユニークで特別である。ニューヨークについてはよく知らないが，サンフランシスコやロサンゼルスには，日本町や中華街がある。ハワイでは多様な民族が共生して文化の違いを受容しながら暮らしている。日本から来た日本人の友人は，ハワイではひな祭りや盆踊りが生活の中で息づいていることに驚く。ハワイの日系人にとって，伝統的行事を大切に守ることは人々と繋がることで，四世，五世，六世に伝えて継承していくことである。20以上あるハワイの様々な組織は，伝統を子どもたちに伝え，伝統を理解してもらい，伝統が失われないようにする努力を払っている。伝統を当たり前に感じ，日系の人々だけでなく，他の文化グループの人々にも親しんでもらえるようにしたい。

④　元年者150周年について

Last year we celebrate the 150th anniversary of the first Japanese immigrants

to Hawaii—Gannenmono—so, we see funding from the state to put the celebration on. In June last year we had a 1-day symposium to celebrate Gannenmono. The association of Nikkei & Japanese Abroad (ANJA) which is based in Japan, they have a yearly conference. Usually it is in Japan to bring Nikkei from all around the world. Last year they decided to have their conference in Honolulu so that it would be together with our Gannenmono celebration. What we did was actually to reach out and found descendants of the original 150. Now they are fourth, fifth, sixth generation. They are all mixed, because the first 150 came, and there were no Japanese women, so they married Hawaiian. So today's descendants have very little Japanese, but they are Hawaiian, Portuguese, Chinese—all mixed. That was 1868 when they first came. About twenty years later, the Kanyaku-imin, that was the big wave of immigrants, most like my great-grandparents. Maybe on one side I'm fourth generation. One hundred fifty came from Yokohama. One-year contract. After the one-year contract, roughly 50 went to mainland U.S., 50 went back to Japan because it was very difficult working on the plantation and I think most of the 150 weren't farmers by background. In Japan they weren't farmers. Some were samurai, because that's when Meiji took over right that happened, so samurai class became no longer. Too hard work, so they went back. And roughly 50 stayed in Hawaii—Big Island, Kauai, some Honolulu, some Maui, but I think mostly Big Island and Kauai. Then they all married Hawaiian women, had children and as the generations went on, they all married Portuguese, Chinese, so all cosmopolitan. Now today they are cosmopolitan. So I will tell you, the 150 that came, they came illegally because the American captain of the ship, I think his name was Van Reed, went to Japan to bring 150 people to Hawaii, but they did not have Meiji

Emperor's approval. So the story was told to us last year that he left at night secretly. He stole 150 Japanese people and took them to Hawaii.

〔要約〕昨年2018年は，明治元年に初めて日本人がハワイに降り立って150年の記念の年に当たり，「元年者」祝賀会が開催された。その折，「元年者」の子孫に当たる人々と祝うことができた。150年の歳月が過ぎ，現在四世，五世，六世の時代になり，その間，混血化が進んでいる。というのも，当初，女性の入植がなかったので，日本人たちはハワイの現地の人々や，ポルトガル系，中国系の人々などと結婚して混血化が進んでいった。当時の労働環境は劣悪であったため，半数は日本に帰国し，半数はアメリカ本土に移り住むことになった。そのような理由で，ハワイに住む人々はコスモポリタンなのである。

⑤　戦争体験とその影響について

My perspective is different from somebody even in California, because our experience here is very different from California. We have the same fourth, fifth, sixth generation, both sides. Their perspective is heavily influenced by what their families went through during the war. For my parents, they weren't affected in the same way. They weren't interned. My grandmother was widowed at a very young age, so my father and my grandmother were displaced. The American military wanted the land they were living on because they were living on plantation land, so they were just told to get out, and they had to, but they weren't interned. They were forcibly removed from their living quarters. My mother's story is different. My grandparents had a farm in Kahala, because Kahala at that time had all farmers. They were farmers, so they weren't affected. They weren't thought of like teachers and Buddhist priests. Those people were sent to internment camps, because they

were influential.

〔要約〕私の先の戦争への見方は，カリフォルニアの日系人の戦争体験とは違っていたので，異なっていると思う。カリフォルニアの日系人は戦争中家族が体験したことに影響を受けている。私の両親はカリフォルニアの日系人と同じようには影響を受けなかったが，早くに夫を失った祖母は，カハラで農場を営み労働者も雇っていたが，その農場を立ち退かなければならなかった。教師や僧侶は影響力があると思われ強制収容所に送られたが，私の両親はそのような体験を強いられることはなかった。

⑥　転機について

After college, I moved to New York City and I did work in the fashion industry for a men's outwear company. That was great because we imported everything and purchase fabrics from Japan. When this position, President of Japanese-American Society of Hawaii became available, I was working for another non-profit, not Japanese related, Girl Scouts of Hawaii actually, and my friends told me to apply for this job. As a Japanese-American, something in me just said, this really should be my next step. I get myself back close to my roots again and am able to work in the Japanese community here locally but also meet and work with Japanese people too. It is fascinating and mind-boggling to me the many different ways that Japanese people and Japan work so hard to maintain this relationship with Hawaii and with Japan. How can we keep building these bridges? That's our little mantra here—we are the bridge. We have to build bridges. That is what our mission is. Small, big, whatever—if we help one student to go to Japan to study in Japan, or we have one Japanese student to come to Hawaii to study, we are building bridges.

〔要約〕私は，大学卒業後，ニューヨークでファッション関係の企業で働い

ていたが，日米協会の代表の求人があり，友人たちに勧められたこともあり応募して採用された。自分のルーツであるハワイで日系社会のために働くことに魅力を感じた。日本の人たちと働くことも素晴らしいと思ったし，どのようにハワイと日本の懸け橋を築くことができるのか模索した。それが私たちの使命である。

（2） B氏インタビューから

① 祖父母，父母について

I am Sansei, third generation. My grandparents emigrated from Fukuoka and Hiroshima, although I found out more recently that my grandfather was from Nara and I believe he came to the United States as a college student. And my grandfather on my mother's side, who was a Yamamoto from Fukuoka, came here as a young boy with his father. My parents are Nisei, they were born and raised in California, and I was also born and raised in California. I was born in Stockton, California, which is near Sacrament.

〔要約〕私は三世である。私の祖父母は福岡と広島の出身であるが，最近，父方の祖父が奈良から大学生の時移民してきたことを知ったが，母方の祖父は福岡から少年時代に移民してきた。私の両親は二世でカリフォルニアのストックトンで生まれ育ち，私もサクラメントに近いストックトンで生まれ育った。

② 祖父母（父方）の強制収容体験について

I always believed that my grandparents were incarcerated during WWII, my parents were incarcerated during WWII, and that their experience had a tremendous impact upon me growing up. My grandfather was picked up soon after the bombing of Pearl Harbor on December 7th 1941, a few days

after December 7th . He was picked up by the local police authorities, the sheriff came to the house, and they searched the house. My father told me they found like a keybag, my father's keybag, and they found some little Japanese military cap or something, and it was just some toy. They found that and then they arrested him and took him in to county jail. My father was a first-year college student, so he was just starting college in Stockton. He had just graduated in June of 1941, was going to college and eventually was to go to the University of the Pacific in Stockton. But my father at that time was the oldest in the family, he had two younger sisters and then my grandmother, my father's mother, was pregnant with another child. So he felt responsible for the family; he told me stories of visiting his father in the county jail, bringing him cigarettes and knowing that he never got any of whatever he brought, any of the supplies, but they did try to visit him in jail. My grandfather was eventually sent to the Department of Justice camps, in Santa Fe, New Mexico, and they were separated for at least two or three years. In the meantime the family, my grandmother, my father, aunts and uncles, were sent away, first to temporary detention camp in the county and then sent to Rohwer Arkansas, before they would see the father again.

〔要約〕私の祖父母が第二次世界大戦中，投獄されたことは，私の成長過程において重大な影響を与えた。祖父は1941年12月７日の真珠湾攻撃の２・３日後に，地元警察当局によって逮捕された。彼らは家の中を物色し軍用帽を見つけ，祖父を逮捕し郡の拘置所に連行した。父は1941年６月に高校を卒業し，ストックトンの大学に通い始めたばかりの１年生であった。父は長男で，妹が２人おり，祖母は当時妊娠中であったので，家族に対して責任を感じていた。父は祖父に届かないのを知りながら，タバコなどを持って拘置所の祖父を訪ねた。やがて祖父はニューメキシコ州のサンタフェ

へ送致された。家族は２・３年の間，離れ離れになった。叔母，叔父とともに祖母たち家族は一時収容所へ送られ，その後，祖父と再会するまで，アーカンソー州，ローワーに収容された。

③　祖父母（母方）の強制収容体験について

My mother was younger; I think she was twelve, so she was much younger when WWII broke out. She was the oldest of five children, and her father, my maternal grandfather, was in agriculture, he was a farmer. He worked the agricultural fields of what's known as Delta Highlands, and actually he worked for a very nice man who said, "I will take care of your house and when you come back you can come back to this house and to your job." They didn't know what was going to happen and they thought they were all going to be separated. So my grandfather had them all dressed up in their best clothes, and they took a family picture, and he gave each child this family picture and he said, "If we ever get separated, you know, you try to find us, remember the family."

〔要約〕母はもう少し年若く，12歳であったように思う。５人の子どもの一番上で，その父や祖父はデルタ・ハイランドで農業を営んでいた。よいオーナーに雇われていて，戻ってくるまで家を預かると言ってくれていた。先行き何が起こるのかわからず，家族がばらばらになるのではないかと不安だった。祖父は，一番上等な服を着て家族写真を撮り，「もし皆ばらばらになったら，捜しに来てくれ。家族を忘れないように。」と言って，子どもたち一人ひとりに写真を渡した。

④　強制収容所からの帰還後について

My grandparents and my father talked a lot what happened during WWII.

After the war, they eventually returned to California, and everyone returned. It was very difficult because they didn't have a home. They allowed their neighbor to take care of their house. And the neighbor moved into the house and wouldn't leave, so they had to throw them out. My grandfather had a business, a movie theater, and he signed the movie theater over to the insurance man. The insurance man sold the business and took the money. I think they lived in the Buddhist church; the Buddhist church became home for many Japanese moving back to California, so they stayed and lived in the church for many years until they were able to get back their home and re-establish themselves. My mother's side, they were able to move back to the Delta Highlands and they moved back into their home. That was very fortunate. I remember the family name of the owner, but they grew potatoes and asparagus and had many Japanese workers, and the owner treated them very well. He provided homes and paid them well. Actually my grandfather and the owner were very close friends.

〔要約〕第二次世界大戦後，祖父母と父はカリフォルニアに戻った。家もなく，帰還後の生活は困難を極めた。隣人に託していった家に，その隣人が入り込んで立ち退こうとしなかった。映画館を営んでいた祖父のビジネスも，保険屋に売り払われ，その金額も取られてしまった。家を取り戻して生活を立て直すまで，やむを得ず寺に身を寄せた。母方は，デルタ・ハイランドに戻り，良いオーナーに恵まれて，ジャガイモやアスパラガスを生産する農場に再び職を得ることができた。

⑤　日本語学習について

I have my own feeling as a Sansei, I and some of my friends went to Japanese language school. They had Japanese language school on Saturdays. So some

of them would go, but my father would say no. You can’t learn Japanese just going once a week. You have to learn every day, so you just learn at home. But he never taught and they used language as a way to keep information from us. If they didn’t want us to know something they would speak in Japanese.

〔要約〕日本語学校に通っていた友人もあったが，父は賛成しなかった。週に一回学校に通っても上達しない。毎日の学習が大事だから家で勉強すればよいと言いながら，父は決して教えてくれたことはなかった。子どもたちに聞かれたくないことは，祖父母の間で日本語で話すためだったのではないかと思う。

⑥　戦争後の変化について

When they knew they were going to be sent away from California, they knew they had to leave. They packed everything in their garage, and they also buried a lot of money. They put a lot of money in cans and they put it into the ground in the yard. When they came back, the garage was robbed and someone broke into it. They took everything in the garage, so they lost a lot. My father and grandfather went and dug up the cans of money. They had a lot of money, so he was able to go to the bank. I think the bank was suspicious of them having so much money, but they did have that money. They had lost their home to their neighbor and also lost their business. So they had very difficult, menial jobs. I cannot imagine my grandfather doing any menial work. I grew up knowing my grandfather every day, even though he was retired, every day he wore a white shirt and the tie. He always wore a suit, so he was very well-dressed. I cannot imagine my grandfather and my father sweeping the sidewalk of Stockton because they had no money. My

father or my grandparents were angry or bitter about what happened. I didn't feel that, but I grew up knowing that it was wrong that what happened to them was wrong. But it's kind of shikataganai. You can't do anything about it. I sensed how deep whatever my grandfather was feeling. I had finished my four-year degree and was going to go into law school. My grandfather said no. He said, "No, lawyers, policemen, FBI, they're all crooked."

〔要約〕カリフォルニアからどこかへ連れて行かれることが分かった時，祖父母はすべてガレージにしまい込み，大金を缶に入れて裏庭の地中に埋めた。戦争後戻ってみると，ガレージにしまっておいた物は，すべて奪われてしまっていたが，地中に埋めたお金は掘り起こすことができた。家は隣人に取られ，ビジネスも失ってしまったことは仕方がないが，祖父が使用人がするような仕事をする姿など想像することもできない。祖父はいつも白いシャツにネクタイをして，スーツ姿だった。父がストックトンの歩道の掃除をしている姿など想像もできない。祖父も父も怒りと苦々しさを感じていたのではないか。私は祖父や父に起こったことは間違いであったと感じていた。私は大学を卒業した後ロースクールで学ぼうと思ったが，祖父は弁護士，警察官，FBI は皆正しくないと言った。

⑦　ハワイ日系社会の文化について

In San Francisco, for example, there is a Japanese cultural Community Center of North California, so we are similar, but they have a basketball court. We do more cultural activities. There is a Japanese-American Cultural Center in Los Angeles, there's another organization in San Francisco and one in Seattle. Here is different. I think because of the number of Japanese immigrants to Hawaii and close Hawaii-Japan relations. I think we are much closer, you can get more involved in US-Japan relations. I think there's more

Japanese traditional cultural arts practiced here, more odori, Tea Ceremony, Ura Senke, Omote Senke. We have a dojo here, so there's kendo several times a week. There is Ikenobo, Sogetsu and there are several flower arrangement schools. I mean I just feel like there're more cultural activities. This community is very close and there is more collaboration. In San Francisco and Los Angeles they just disperse and they are just living all over. We have a stronger bonds among people here.

〔要約〕サンフランシスコにも，ロサンゼルスにも，シアトルにも日系アメリカ人文化センターがあるが，ハワイのように島の中に囲まれて住まないせいなのか，拡散してしまっている。ハワイでは日系人たちがより強い絆で結ばれ，日本との関係を大切にし，伝統文化を奨励しているため，その文化的活動，例えば踊り，茶道，剣道，華道を介してコミュニティー内でお互いにより緊密で協力的になれるという特徴がある。

⑧　日系人としての生き方について

I was always taught to be proud of my Japanese ancestry. My father was telling me to be proud of who you are; and he would say, “If you want something or you want to do something, you go for it! Go and do it. Don't let anyone stop you.” And he would say, “Don't enryo! If you want that, you go to get it!” That's what he taught me, and I think that's spirit of being. Always remember you're Japanese; be proud of your Japanese ancestry. Don't let anyone stop you from achieving what you want to achieve. I think that helped me succeed in my job at the university. I learned to speak up, I learned inner strength. My father would make me read a book like Miyamoto Musashi when I was a high school student. I didn't understand everything, but I think he was trying to teach me Japanese values. You sometimes have to just

gaman, you know? My father had a very deep influence on me. And those values, I think from the family values, the cultural values, the pride of your ancestry, and being thankful and grateful for what you have. My grandparents had sacrificed so much so that I could go to college, so I could succeed. I know the direction of my life was heavily influenced by my grandparents and my parents.

〔要約〕私は父から祖先を敬い，日系人であることに誇りを持つように言われて育った。父は，「欲しいものがあれば，またやりたいことがあれは，遠慮せず必ず手に入れる。誰にも妨げられない。」と教えてくれた。時には我慢しなければならないが，父の教えのお蔭で，はっきりとものを言い，力を蓄えて，大学という職場でも能力を発揮することができたと思う。父は私に多大な影響を与え，家族が大切にすべき価値，文化的価値，祖先への誇り，今の自分が獲得したものに感謝することを教えられた。祖父母と父母が払った犠牲の上に自分があることをありがたいと思っている。

⑨　価値の継承について

I am retiring from my job, but there are things that I carry with me that move me forward. I have now three grandchildren; I have one grandson who’s five years old. I have two granddaughters. My granddaughters are two years old and six months old. That’s why I want to retire so I can spend time with my grandchildren. I want them to have the same values. I want them to be proud of their Japanese ancestry; I want them to grow up with the kind of family values that I learned. That’s one thing I want to do. I still am active in many of the Japanese community organizations, and I will continue to do that as a volunteer. I’m very interested in preserving a lot of the history; the Japanese history in Hawaii, the Japanese history in California, so I want to

continue to do that. There are so many more stories and experiences I want to pass on, not only to my grandchildren but to future generations. At this point, I always think, like one hundred years from now. What do I want the young Japanese-American kids who won't even look Japanese. What do I want them to know about their immigrant families? So that's what I want to document many stories and experiences, so that future generations can learn. Last year was 150th anniversary of the Gannenmono; and I had a chance to meet and interview many descendants. They are fifth, sixth, seventh, eighth generation in Hawaii, and they look Hawaiian, they look Caucasian, some do not look Japanese at all. I want that we can keep, we can still be proud of who we are and keep that Japanese language and many of the cultural practices. They are very much a part of Hawaiian life.
〔要約〕私は今退職するところであるが，これから成し遂げたいことがある。私には孫が３人いる。５歳になる男の子と，それぞれ２歳と６カ月の２人の女の子で，この孫たちとともに時間を過ごしたいと思っている。孫たちには，私が身に付けた家族を大事にする価値観を持ち続けてもらいたい。もう一つ私がやりたいことは，ハワイとカリフォルニアにおける日系の歴史や経験してきたことを記録することである。昨年の「元年者」150周年記念事業で，多くの五世，六世，七世の子孫たちに会い話を聞くことができた。ハワイアンのように見える者も，白人のように見える者もいたが，日本語や文化的伝統の実践を大切にして，自分の出自に誇りを持って生きていってもらいたい。

5．おわりに

本稿では，まず海外移住が始まった1868年の開国から，日本人のアメリカ，特にハワイへの出稼ぎ，そして移住から定住へと変化していった日系

人の海外移住の歴史的流れを概観した。次に2019年２月６日にハワイ州，ホノルルにおいて英語で実施した日系アメリカ人Ａ氏およびＢ氏のインタビュー調査の内容を検証した。インタビュー調査は，被験者２名のライフヒストリー，日系人として大切にしていること，ハワイ日系社会の文化や日本の文化について，そしてハワイ日系社会における最近の変化と今後のあり方について語ってもらい，Ａ氏およびＢ氏がどのように生きてきたか，またこれからの時代に向けて，日系社会発展のためにどのように貢献していくのか，一例として提示した。

インタビュー調査の分析結果として，日本語学習については，家族のコミュニケーションのツールとして日本語学習による日本語の習得は重要であるが，家庭の外では日本語を使用する環境にないため，例えば週一回の学習では充分な習得が困難であり，大学における外国語コースを履修しても，コース半ばで諦めてしまう日系アメリカ人も少なくない。時代が進むにつれて，日本語が流暢な一世，二世が減るにつれて，今後日本語の習得はさらに難しくなることが予想される。

ハワイの文化の特殊性については，日本の伝統的な文化が日常的に大切に継承されていることに，むしろハワイを訪れた日本人が感心させられる状況である。日常に取り込まれた伝統的な文化は日系の人々の繋がりを促し，日系人の強い絆や日本との関係を大事にする努力の証として捉えることができる。

第二次世界大戦中の体験については，大戦をハワイで迎えた場合と，アメリカ西海岸地域で経験した場合で異なっている。ハワイでは影響力が強いと思われる教師や僧侶が強制収容されたが，アメリカ西海岸地域では，一般の日系人たちが皆強制収容され，家も財産も失い，頼りにして留守を任せた隣人への信頼も失う結果となった。祖父母（一世）や父母（二世）が強制収容された場合，三世に当たる子どもたちはその成長過程において，

祖父母や父母が経験した戦争中の強制収容から大きな負の影響を受けたことが明らかとなった。

被験者A氏もB氏も，自身のルーツであるハワイ日系社会に立ち戻って，日系コミュニティーのために働きたい，ハワイと日本の懸け橋として役立ちたいと考えていることが明らかとなった。例えば，孫と過ごすことによって，自身が学んだ家族の価値観，文化的価値観，先祖への誇り，現在の自分があることへの感謝の気持ちを伝えたいという強い思いがあり，またハワイやカリフォルニアの日系移民の歴史や経験したことを記録に残すことにより日系ばかりでなく他の多くの人々に自分たちのことを伝えたいと考えていることが明らかになった。

〔付記〕

本稿の一節「海外移民の始まり」は，「アメリカ日系社会の言語への取り組み―サンフランシスコ金門学園を事例として―」『人文研紀要』第70号，2010年刊行の一部である。

注

1) 堀雅昭（2007）『ハワイに渡った海賊たち―周防大島の移民史』弦書房，9-13頁。
2) ハワイアンズヒストリー　http://www.hawaiians.co.jp/profile/history.html
3) 前掲書，9-13頁。
4) ハワイ州　https://ja.wikipedia.org
5) 東栄一郎（2002）「日本人海外渡航史」アケミ・キクムラ＝ヤノ編，小原雅代訳『アメリカ大陸日系人百科事典』明石書店，64-70頁。
6) 前掲，64-70頁。
7) 東栄一郎（2002）「日系アメリカ人史概略」アケミ・キクムラ＝ヤノ編，小原雅代訳『アメリカ大陸日系人百科事典』明石書店，370-371頁。
8) 前掲，371頁。
9) 前掲，372-373頁。
10) 前掲，373頁。

11） 前掲，374-375頁。
12） 前掲，377-378頁。
13） 金門学園（1991）創立80周年記念1911～1991『金門学園の歩み』Pacific Mediart Productions，53頁。
14） 東栄一郎（2002）「日系アメリカ人史概略」アケミ・キクムラ＝ヤノ編，小原雅代訳『アメリカ大陸日系人百科事典』明石書店，378-379頁。
15） 前掲，380-381頁。
16） 前掲，383-385頁。
17） 前掲，386頁。
18） 前掲，388-389頁。
19） 森本豊富編著（2009）「『帰米二世』という生き方」『移動する境界人―「移民」という生き方―』現代資料出版，1-53頁。
20） 前掲，8-9頁。
21） 前掲，9-15頁。
22） Hawaii Tourism Japan（ハワイ州観光局）
1600 Kapiolani Blvd. Suite 723, Honolulu, HI 96814, U.S.A.
Web www.gohawaii.jp
23） Japan-America Society of Hawaii（日米協会）
1600 Kapiolani Blvd. Suite 204, Honolulu, HI 96814-3878, U.S.A.
Web www.jashawaii.org
24） Japanese Cultural Center of Hawaii（日本ハワイ文化センター）
2454 South Beretania Street, Honolulu, HI 96826-1432
Web www.jcch.com
25） 前掲，注19）9-15頁。
26） 前掲，注19）41-43頁。

参考文献

東栄一郎（2002）「日本人海外渡航史」アケミ・キクムラ＝ヤノ編，小原雅代訳『アメリカ大陸日系人百科事典』明石書店
小川真和子（2017）『海の民のハワイ―ハワイの水産業を開拓した日本人の社会史―』人文書院
小沢義浄編著（1972）『ハワイ日本語学校教育史』ハワイ教育会
貴堂嘉之（2018）『移民国家アメリカの歴史』岩波新書
坂口満宏（2001）『日本人アメリカ移民史』不二出版

根川幸男，井上章一編著（2016）『越境と連動の日系移民教育史―複数文化体験の視座―』ミネルヴァ書房
ヒラバヤシ，レイン・リョウ，キクムラ＝ヤノ，アケミ，ヒラバヤシ，ジェイムズ・A編，移民研究会訳（2006）『日系人とグローバリゼーション―北米，南米，日本―』人文書院
堀雅昭（2007）『ハワイに渡った海賊たち―周防大島の移民史―』弦書房
森本豊富編著（2009）『移動する境界人―「移民」という生き方―』現代史料出版
山本岩夫，ウェルズ恵子，赤木妙子編（2007）『南北アメリカの日系文化』人文書院
米山裕，河原典史編著（2007）『日系人の経験と国際移動―在外日本人・移民の近現代史』人文書院